

火災・ガス事故を防ぐのはあなた！

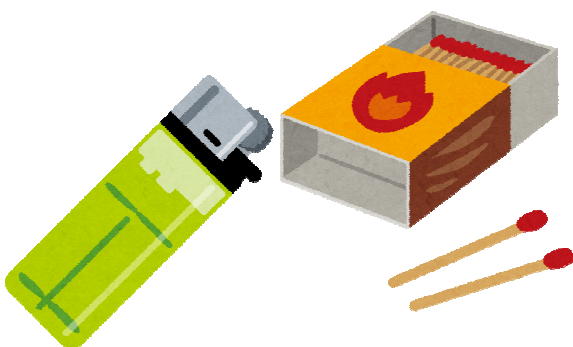
火災・ガス事故は毎年多くの人的・物的損害を発生させています。火災等は、あなた自身の心構えで防ぐことができます。県営住宅にお住いの皆さんも、今一度次のことに十分注意し、火災等の発生を防ぎましょう。

火災をおこさないためのポイント

たばこ

吸っているたばこの温度は600度から800度近くもあります。吸いかげのたばこを置き忘れたり、投げ捨てたりすると危険です！！

- 灰皿のあるところで吸う。
- 寝たばこは絶対にやめる。
- たばこの投げ捨てはやめる。
- 灰皿には水を入れる。
- 吸いがらの始末には専用容器に備え、くずかごに捨てない。



子供の火遊び

- マッチやライターは、子供の手のとどくところに置かない。
- 子供たちだけで、たき火をさせない。
- 小さいころから「火」の恐ろしさや正しい使い方をよく教える。

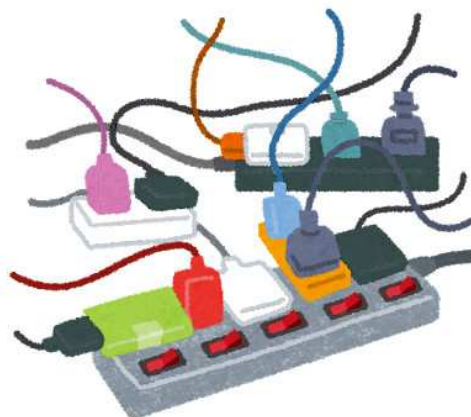
台所

- 電話の対応や他の用事で、その場を離れるときは、必ずコンロの火を消す。
- コンロのまわりや、上部にふきんなどの燃えやすいものは置かない。
- ガスの元せんは、その都度閉める。
- 使用しないガスコックにはゴムのキャップをつけておく。
- ゴム管は必要最低限度の長さで使用し、ひび割れたり、表面が解けてべたつくものは取替える。



電気器具

- 使い終わったらスイッチを切るだけでなく、コンセントからコードを抜いておく。
- たこ足配線はしない。
- コンセントや、差込のゆるんでいるものは完全に閉め、コードの傷んでいるものは取り替える。



ストーブ

- 火をつけたまま、石油ストーブに給油をしない。
- 火をつけたまま、持ち運ばない。
- ストーブの上で洗濯物等を乾燥させない。
- カーテン等、燃えやすい物のそばで使用しない。
- 故障（油漏れ等）したものを使用しない。

ガス事故防止のためのポイント

- コンロ、暖房器具の炎の調整をこまめにし、正常な状態で使用しましょう。
- ガスの種類によって使用器具が違います。ガス器具の取りつけは、ガス専門会社にまかせましょう。
- ガス風呂をたくときは、窓を開けるなど換気に注意しましょう。
- 古いゴム管は取り替えましょう。
- ガス漏れ警報器を設置しましょう。
- ガス漏れに気付いたら、すぐ窓を開け、ガス栓を確認し、原因不明のときは、ガス会社に連絡しましょう。換気扇のスイッチを入れたり、電気のスイッチを切ると、ガス爆発の誘因となります。

避難のためのポイント

- 非常の場合に備え、避難方法を過程で定めておきましょう。
- 出入口、階段、廊下、ベランダに物を置かないようにしましょう。
- ロープなどを用意しておきましょう。
- 体の不自由な人や老人などを残して外出するときは、お隣へ知らせておきましょう。
- 非常の場合も、落ち着いて行動しましょう。

非常に備え、小型消火器を用意しましょう。

